

Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>



NO.7

令和8年3月10日

編集・発行

学校支援課 広報担当

今年度の授業を振り返って

計画訪問、要請訪問等を通して、たくさんの優れた授業実践を見ました。大変ありがとうございました。

主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善について、令和7年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙や学校質問紙の結果からも、本市の先生方の取組が成果として表れています。また、多くの授業で、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を意識したことが数値にも表れています。ICTの活用率についても新潟市の児童生徒、教職員は高水準を維持しています。

授業づくりで大切にしたいこと ~これまでもこれからも~

◆単元デザイン ゴールの姿を具体的に



◆授業づくりの要件 学びを自覚、自ら学ぶ

- 何を学ぶのか
- どう学ぶのか
- どのように追求・取組を進めるのか
- 何を学んだのか
- どう学んだのか

各校園では、単元を見通した授業構成の検討をし、全ての子どもが学びを自覚し、主体的に取り組むことを目指した授業づくりを更に進めてください。単元デザインと授業づくりの要件を大切に授業づくりを推進するためのツール（「単元デザインシート」、「振り返りシート」）を学校園の実態に応じてご活用ください。



単元デザインシート

「単元終末の子どもの姿」を真ん中に据え、1枚で全体像をつかむシートです。

子どもの実態、教科の見方考え方、単元で育成を目指す資質・能力、学校教育ビジョンや校内研修との関連、これらをもとに単元終末の子どもの姿のイメージを設定します。

単元終末の子どもの姿



時間目	1			内容の振り返り	学び方の振り返り	27
	準備	学び	振り返り			
1 相沢 翔太	5	5	5			
2 青木 勇次						

振り返りシート

2つの形式があります。教師の担当する教科や学年、単元、子どもの実態等に応じて活用ください。

※実際に使用の様子は上の二次元コードから見るができます。

「新潟市の家庭学習」改訂 ～授業・家庭とつながる家庭学習～

新潟市の家庭学習 授業・家庭とつながる家庭学習

<新潟市が目指す家庭学習>
主体的に学び続ける力を育てる家庭学習
(いろいろな学びのコンパス(教科)「生活を通して学び、夢や希望に向かって挑戦し続ける力を身に付ける」より)

主体的に学び続ける力とは

- 自分に合った学び方を見つける力
- 自分で課題を見つける力
- 適切な内容を選び、計画を立ててやり抜く力

新潟市の家庭学習

新潟市が目指す家庭学習を再設定し、授業・家庭学習・家庭、それぞれの役割を明確にして推進していきます。



これらの二次元コードはすべて「新潟市授業づくりサポートVer2.1」に掲載しています。また、L-gate内のe-Support、C4th内の書庫、総合教育センターHPに掲載しています。

令和8年度の授業改善に向けて

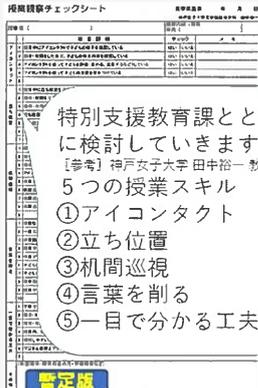
□ 「校内研修やOJT」の創造 各校園の実態に応じて

- ① **一貫性** 「学校教育ビジョン（学校経営方針）一校内研修計画一各自の研究（授業）・協議会」が整合していて、職員にも浸透している。
- ② **焦点化** 研修計画を明確化し、教職員が取り組むことを絞り込み、各自取り組んでいる。
- ③ **研修方法の工夫** 明確な研修計画で、自分たちが何を目指しどこに向かっていくかを、全教職員が共有した上で、単発で終わらず、継続的に教職員自身の学びとなる研修方法。学校（子ども・教職員・地域等）の実態に合った研修。対話とリフレクション。
- ④ **教科の本質** 教科の本質から離れて、「かかわる」「話し合う」「選択する」などの手段のみに執着してしまうことがないようにする。手段が目的化しない、教科の本質をついた研修。

教職員一人一人が主体的に授業改善に取り組むために、各校園の実態に応じた「校内研修体制・OJT体制」が肝要です。経験年数、担当（研究）教科や学年、得意分野等も異なる教職員が、各校園の目指す子どもの姿（資質・能力）に向けて、学級全体で授業改善に取り組みます。

□ 「教授行動・指導技術」の再確認（UDの基礎）

授業づくりサポートp.22-33の内容を再確認



どんなに指導案・計画がしっかりと立てられていても、子どもたちが「分かる・できる・参加する」ためには、「教授行動・指導技術」が重要となります。「授業づくりサポートver.2.1」p.22-33を確認ください。★特別支援教育課とともに教授行動を確認するための「授業観察のチェックシート」を検討しています。

Report -学体研 新潟大会 プレ大会-



「第65回 全国学校体育研究大会 新潟大会 プレ大会」

令和8年度に新潟県で「第65回 全国学校体育研究大会 新潟大会」が開催されます。この大会はスポーツ庁や公益財団法人 日本学校体育研究連合会が主催し、毎年全国各地で行われている体育・保健体育の研究大会です。この全国大会が以前に新潟県で行われたのは昭和57年でしたので、44年ぶりに新潟県での開催となります。

その全国大会の前年度である令和7年度は、本大会で保育・授業を公開する新潟県内12校園（下記参照）のうち、6校園（新潟市立学校は3校）でプレ大会を実施しました。

大会主題

生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、子供たちが深く学ぶ楽しさや喜びを実感できる体育・保健体育学習

第1日目		11/12 (木)		全体会		朱鷺メッセ 新潟市中央区万代島 6-1	
9:30	10:40	12:10	14:00			17:00	
受付	開会式	表彰式	基調報告	昼食	解説	シンポジウム	特別講演
	10:00	11:40	13:10			15:50	



小針小学校（走り高跳び）

第2日目		11/13 (金)		分科会		研究授業公開各校園	
9:00	12:00	14:20			15:00		
受付	公開保育・授業		昼食	研究発表 研究協議	指導 講評	閉会式	
	9:30	13:00			14:40		



笹口小学校（跳び箱運動）

分科会場

第1分科会	新潟青陵こども園	第2分科会	新潟市立沼垂小学校
第3分科会	新潟市立上所小学校	第4分科会	新潟市立笹口小学校
第5分科会	新潟市立小針小学校	第6分科会	長岡市立四郎丸小学校
第7分科会	新潟市立東新潟中学校	第8分科会	新潟市立小針中学校
第9分科会	長岡市立東北中学校	第10分科会	新潟県立長岡高等学校
第11分科会	新潟県立新潟商業高等学校	第12分科会	新潟県立江南高等特別支援学校



東新潟中学校（サッカー）

新潟大会の大会主題は「生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、子供たちが深く学ぶ楽しさや喜びを実感できる体育・保健体育学習」です。

新潟大会に向け、12の研究指定校園（上記参照）を中心に、「体育や保健の見方・考え方」を働かせ、子供たちが深く学ぶ楽しさや喜びを実感できる保育・授業の在り方を検討しています。新潟大会では、幼稚園教育要領や学習指導要領の趣旨及び内容並びに新潟県の子供たちの実態やこれまでの研究実践を踏まえた保育・授業を公開し、大会主題に掲げる体育・保健体育学習の在り方について全国の教育関係者に提案します。新潟大会の日時や場所は、上記のとおりです。各学校園で来年度の予定に位置付け、職員研修の一つとして、ぜひご参加ください！

これからの地域クラブについて

令和8年4月から中学校の部活動が変わります！

○平日は最大 16:45 まで（学校によっては部活動を行わない場合あり）

○休日は実施しません（練習試合や大会等も含む）

*中体連主催大会や吹奏楽コンクールなどが休日に開催の場合は実施可能

中学生の文化・スポーツ活動は、

「地域クラブ活動」が中心になります



地域クラブ活動とは？

地域のスポーツ団体や文化芸術団体が主体となり、中学生のために活動を企画・運営する取組です。

従来の部活動の種目以外にも、少林寺拳法、ラグビー、健康麻雀、囲碁、万代太鼓、など、**多種多様な350以上の団体**が現在リストに掲載されています。

地域クラブ活動団体リストでわかること

- ☑種類・活動場所・活動日時
- ☑費用・在籍人数・活動レベル
- ☑指導者やクラブの特色等
- ☑体験・見学の可否
- ☑直接問合せも可能です

右の二次元コードからリストを検索できます。



地域クラブ活動の推進について

本市では、スポーツ庁・文化庁のガイドラインに基づき、急激な少子化の中であっても、将来にわたって子どもたちが、継続的にスポーツや文化芸術活動を親しむ機会の確保を目指し、地域全体で、子どもたちが身近で「やりたい活動」を見つけることができるよう、地域クラブ活動を推進しています。

令和8年度の本市の取組

○地域クラブ活動に対する補助金

→地域クラブの指導者への謝金や物品（消耗費）への補助を行います。クラブの運営支援と低廉な会費の設定に繋がります（参加者の負担軽減）。

○コーディネーターの配置

→コーディネーターがクラブの設立や運営を支援します。



○指導者研修会の実施と指導者登録制度の構築

→指導者の質の向上と新たな指導者を確保するため、スポーツ、音楽（吹奏楽）の指導者研修会を行います。

また、令和9年度からの地域クラブ活動認定制度の運用開始に向け、指定した研修の受講等を要件とした指導者登録制度を整備します。

○未使用楽器の有効活用

→現在、中学校で使用されていない楽器を点検・修理し、必要とする地域クラブが楽器を活用できる仕組みを整備します。



○中学校施設の優先利用

→令和8年4月から、平日 17:00～19:00 と休日 9:00～19:00 を団体リスト掲載の地域クラブが優先的に利用できる仕組みを整備しました（通称、ジュニア専用枠）。利用日時の調整は、各クラブが所属する「ジュニア専用枠運営委員会」で行います。また、体育館や職員玄関のカギの使用や、セキュリティの操作は、学校と同意書を交わし、地域クラブが行うことができます。



○公共施設利用への支援

→団体リストに掲載された地域クラブが現行の部活動同等に公共施設使用料の軽減を受けられることができる仕組みを整備します。

『地域クラブ活動』に関するQ&A

Q 令和8年度以降、全ての中学校が平日の勤務時間内で部活動を継続するのですか。

A 全ての中学校が部活動を継続するわけではありません。継続する学校は25校で、継続しない学校は32校です(令和8年度の3年生が部活動を引退したら廃止する学校含む)。継続しない学校においても、レクリエーション的な活動等を予定(実施)している学校が10校程度あります。

Q 教職員は、地域クラブの指導者になることができますか。

A 可能です。指導者不足で困っている地域クラブに情報提供をするため、指導者リストを整備しています。指導者リストへの掲載をお待ちしております。



Q 教職員は、地域クラブから指導者謝金をもらうことはできますか

A 可能です。ただし、あらかじめ兼職・兼務願(様式は、C4 t h 書庫→05学校人事課→様式類に格納)を学校人事課に提出し、承認を得る必要があります。詳細は、『地域クラブ活動に従事する教職員の勤務対応等について(通知)』<新教人第190号:令和7年5月23日(中学校長、高等学校長宛)又は6月2日(小学校長宛)>及び『営利企業への従事等の制限に関する適正な取り扱いについて(通知)』<新教人第825号:令和5年2月1日>をご参照ください。

Q 国のガイドラインが示す「認定地域クラブ活動制度」とはどのような制度ですか。

A 国が示す7つの要件(指導体制の充実など)に基づき、各自治体が地域クラブ活動の認定を行う仕組みです。認定を受けることにより、中学生がより安心・安全に活動することができますとともに、認定を受けた地域クラブは、財政支援等の公的支援を受けやすくなります。本市では、令和9年度からの本格的な運用開始に向けて準備を進めています。詳細が決まり次第、新潟市ホームページ等で周知していきます。

地域クラブ活動の最新情報は、新潟市HPから検索できます。

問い合わせは、地域クラブ活動推進室へ TEL 226-3221

